

資料1

加古川市上下水道事業決算説明資料 (水道事業)

加古川市上下水道局



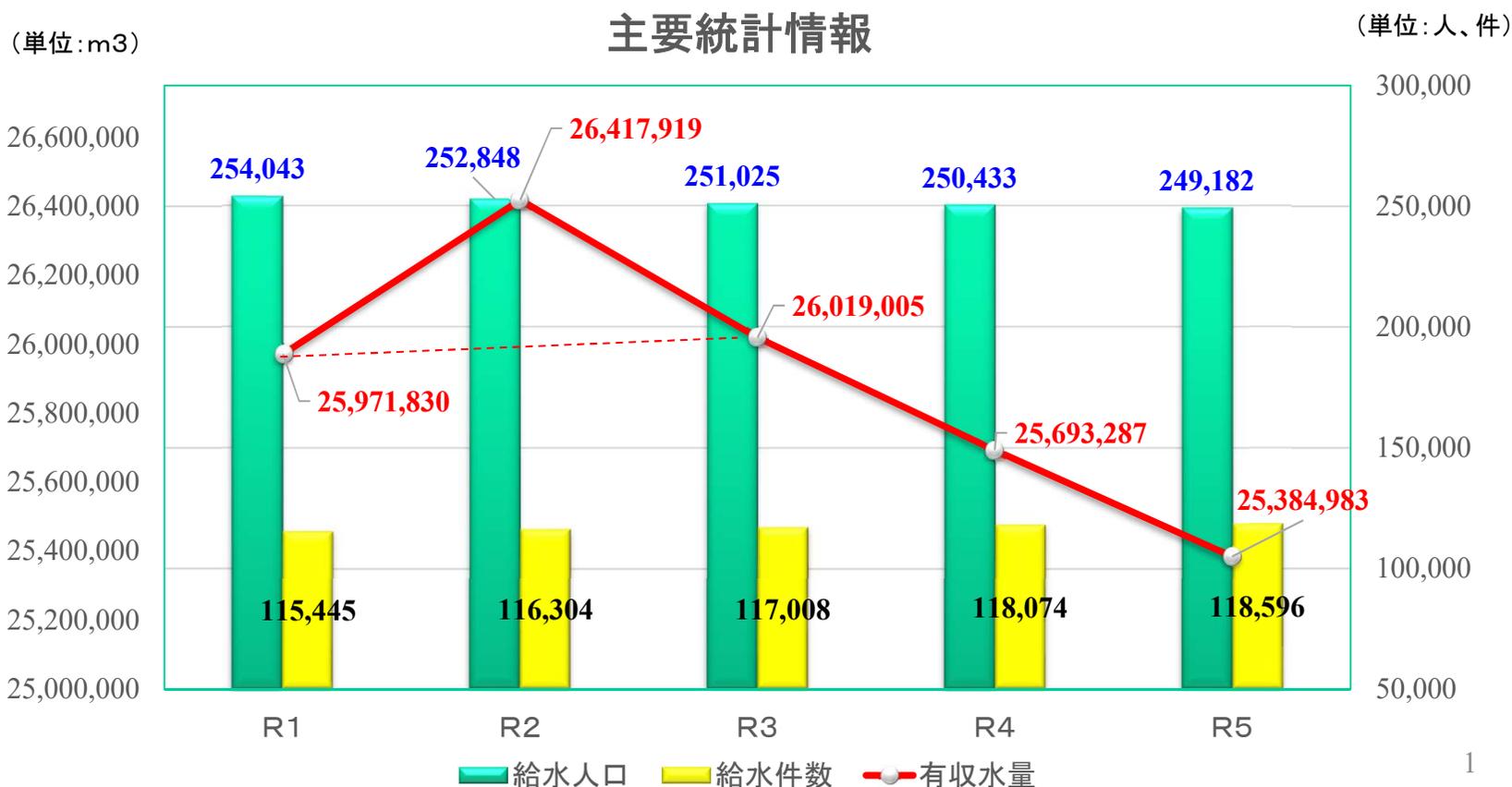
1 -1 決算の概要

有収水量は一般家庭が
261,680m³減少(△1.3%)



● 主要統計情報※()内は前年度

・給水人口	: 249,182 人	(250,433人)	△1,251人	[△0.5%]
・給水件数	: 118,596 件	(118,074件)	+ 522件	[+0.4%]
・有収水量	: 25,384,983 m ³	(25,693,287m ³)	△308,304m ³	[△1.2%]



1 -2 決算の概要

令和2年度
 料金減免 6.8億円
 受水費減免 3.2億円

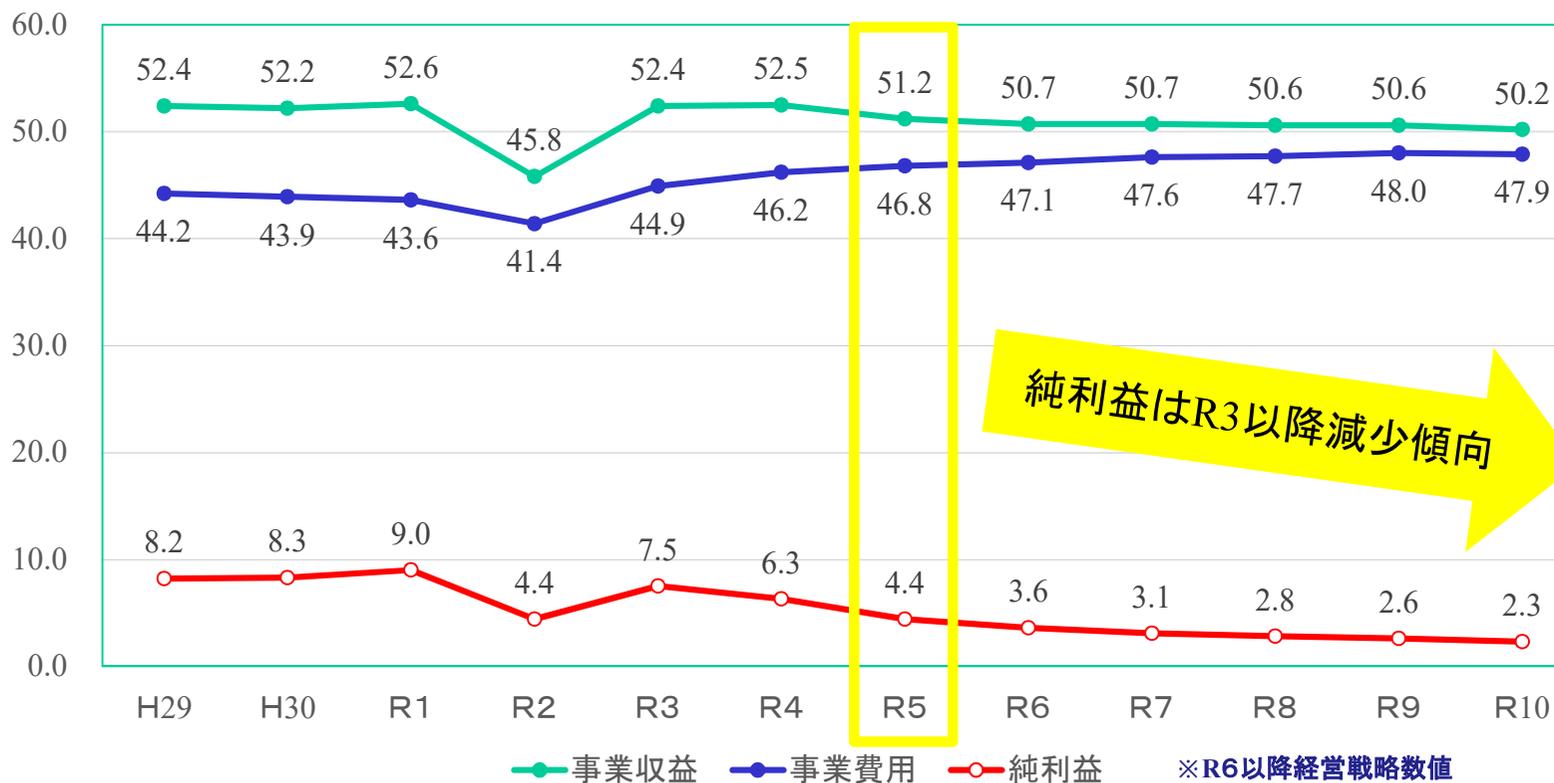
● 水道事業会計※()内は前年度

- ・事業収益 : **51億1,659万円** (52億4,565万円) △1億2,906万円
- ・事業費用 : **46億8,015万円** (46億1,936万円) + 6,079万円
- ・純利益 : **4億3,644万円** (6億2,629万円) △1億8,985万円



(単位: 億円)

事業収益、事業費用、純利益の推移



2 事業収益

●事業収益総額 51億1,659万円(前年度比 △2.5%)

【主な増要因】

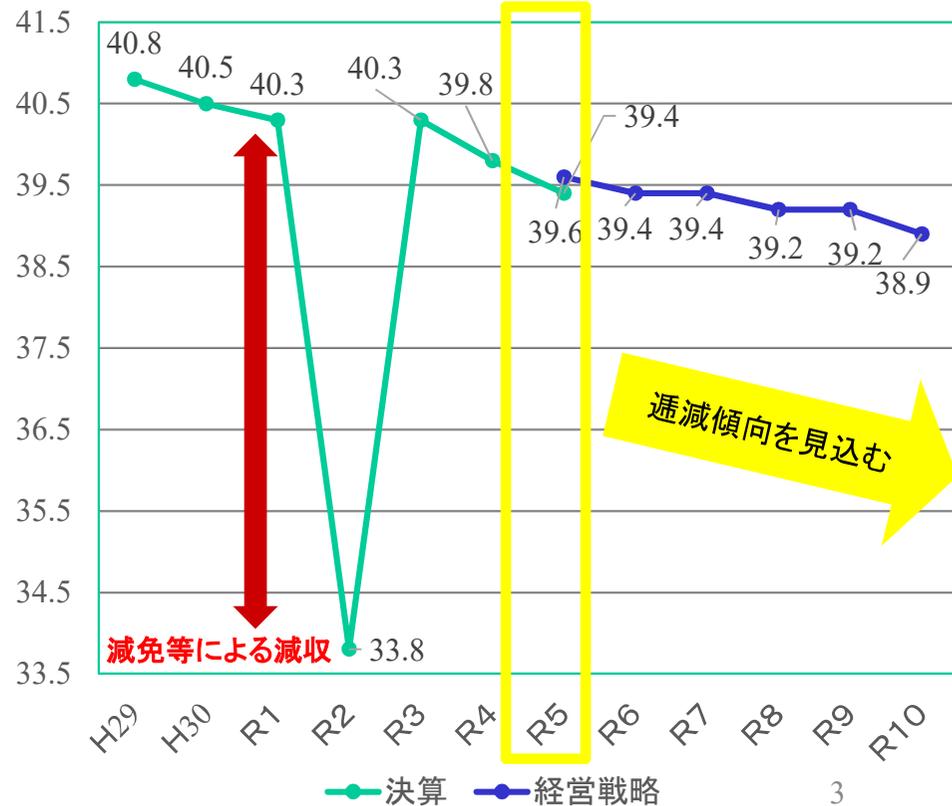
○給水収益: 令和2年度に実施した水道料金の基本料金の減免(新型コロナウイルス感染症に関連する減免)に対し、令和3年度には減免を実施しなかったこともあり令和元年度並みに戻りました。しかしながら、給水人口の減少や節水機器等の普及により、水需要の縮小傾向に変化は見られず、令和5年度においては前年度と比べ約0.4億円減少の約39.4億円となりました。

(単位:百万円)

		5年度	4年度	増減
事業収益		5,116	5,246	△ 130
営業収益		4,637	4,703	△ 66
	給水収益	3,936	3,978	△ 42
	受託工事益	2	2	0
	その他の営業収益	699	723	△ 24
	営業外益	477	536	△ 59
	受取利息及び配当金	2	2	0
	雑収益	213	274	△ 61
	他負担金	2	2	0
	長期前受金戻入益	260	258	2
特別利益		2	7	△ 5
	過年度損益修正益	2	7	△ 5

(単位:億円)

給水収益の推移



3 事業費用

●事業費用総額 46億8,015万円(前年度比 +1.3%)

【主な増要因】

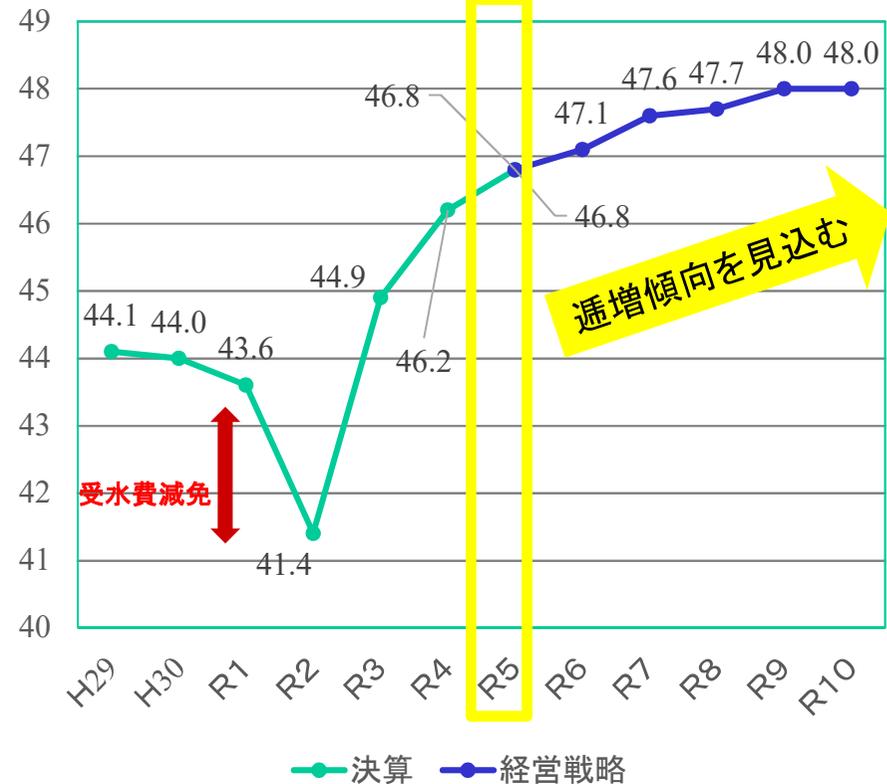
○減価償却費: R4年度に完成した中西条浄水場高架水槽及び福留配水池No.1配水池耐震補強等の大規模更新事業により取得した資産の減価償却開始に伴い、**前年度と比べ約0.9億円増加し、約17.2億円**となりました。

(単位:百万円)

	5年度	4年度	増減
事業費用	4,680	4,619	61
営業費用	4,531	4,468	63
原水及び浄水費	1,937	1,985	△ 48
配水費	262	265	△ 3
給水費	114	124	△ 10
受託工事費	3	2	1
業務費	274	256	18
総係費	193	186	7
減価償却費	1,716	1,626	90
資産減耗費	32	24	8
営業外費用	145	150	△ 5
支払利息	143	148	△ 5
雑支出	2	2	0
特別損失	4	1	3
固定資産売却損	2	-	2
過年度損益修正損	1	1	0
その他特別損失	1	-	1

(単位:億円)

事業費用の推移



4 資本的収支

●資本的収入 11億1,715万円(前年度 9億 92万円) +2億1,623万円[+24.0%]

【主な増減要因】

- 工事負担金 : 下水道関連配水管移仮設工事収益の増(+2億2,329万円)
- 国庫補助金 : 国庫補助対象事業の増(+5,833万円)

●資本的支出 35億5,921万円(前年度30億7,932万円) +4億7,989万円[+15.6%]

【主な増減要因】

- 建設改良費 : ・配水施設費 工事請負費の増(+7億 875万円)
※老朽管更新工事や配水管移仮設工事等の増
- ・原浄水施設費 工事請負費の皆減(△4億 328万円)
※R4: 中西条浄水場高架水槽更新工事
- ・営業設備費 工事請負費の増(+5,469万円)
※R4: 非常用発電装置設置工事⇒R5: 保管庫設置工事

<企業債>

【概要】

公営企業の資金を調達するため発行されるもので、その元利償還金は主として当該企業の料金収入等から支払われる。水道事業については、上水道及び簡易水道に係る建設改良費等並びに用途廃止施設の処分に要する経費を対象とするもの。

【充当率】100%(上限)

加古川市水道事業においては、将来の償還利子負担を軽減することや世代間の負担の公平性(一人あたり企業債残高を現役世代なみに抑えること)を目的として、令和2年度より充当率を50%に設定している。(以前は70%)

5-1 主な経営指標

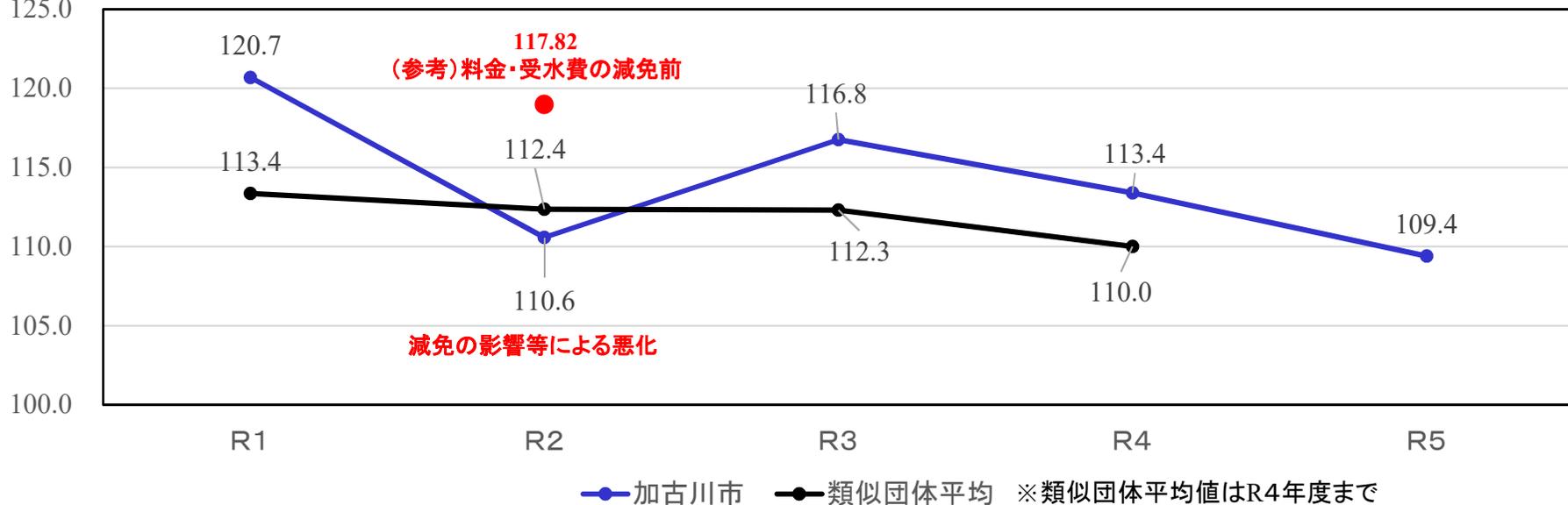
経常収支比率 **109.4** (R4類似団体平均:110.0)

【算式】 経常収益／経常費用

- 当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標。単年度の収支が黒字であることを示す **100%以上となっていることが望ましい**。
- 営業費用の増加に伴い、前年度と比べ、**4.0ポイント悪化**した。

経常収支比率の推移

(単位:%)



5-2 主な経営指標

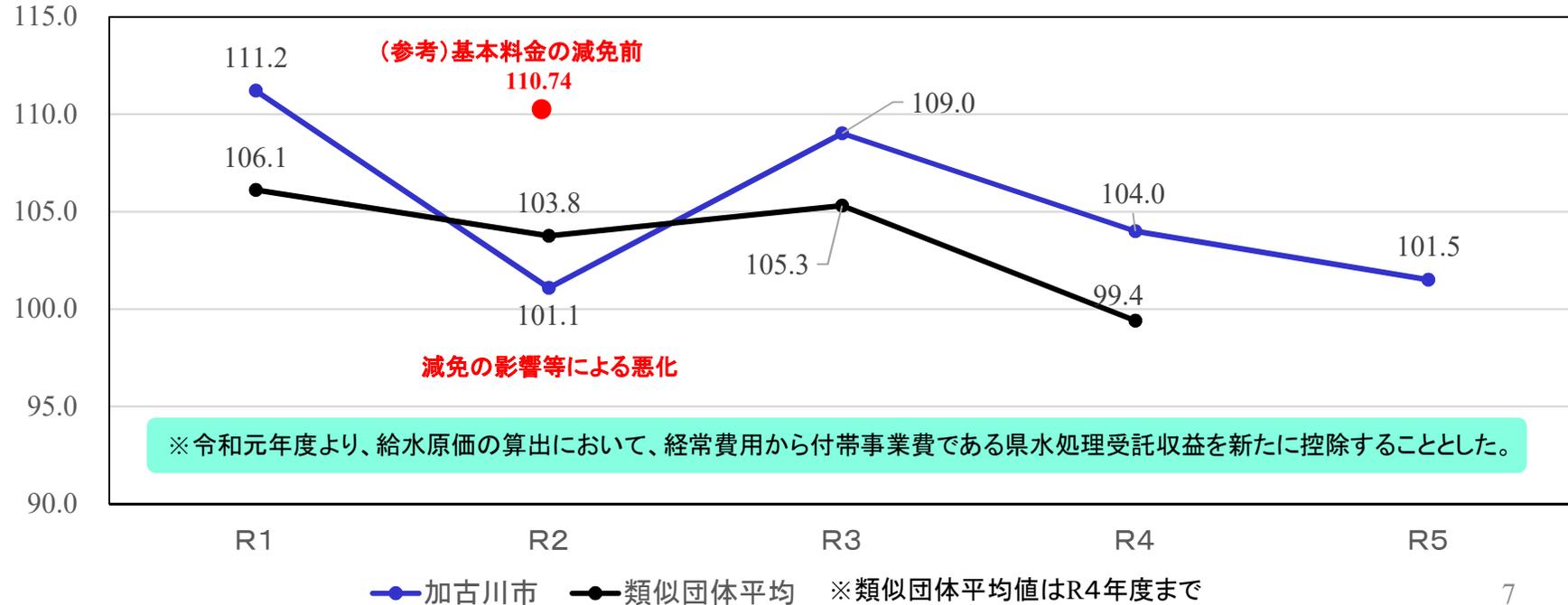
料金回収率 **101.5** (R4類似団体平均:99.4)

【算式】 供給単価／給水原価

- **料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。** 数値が低く、繰出基準に定める事由以外の繰出金によって収入不足を補填しているような事業体にあつては、適切な料金収入の確保が求められる。
- 給水原価の増に伴い、前年度と比べ、**2.5ポイント悪化**した。

(単位:%)

料金回収率の推移



5-3 主な経営指標

供給単価 **155.04円/m³**

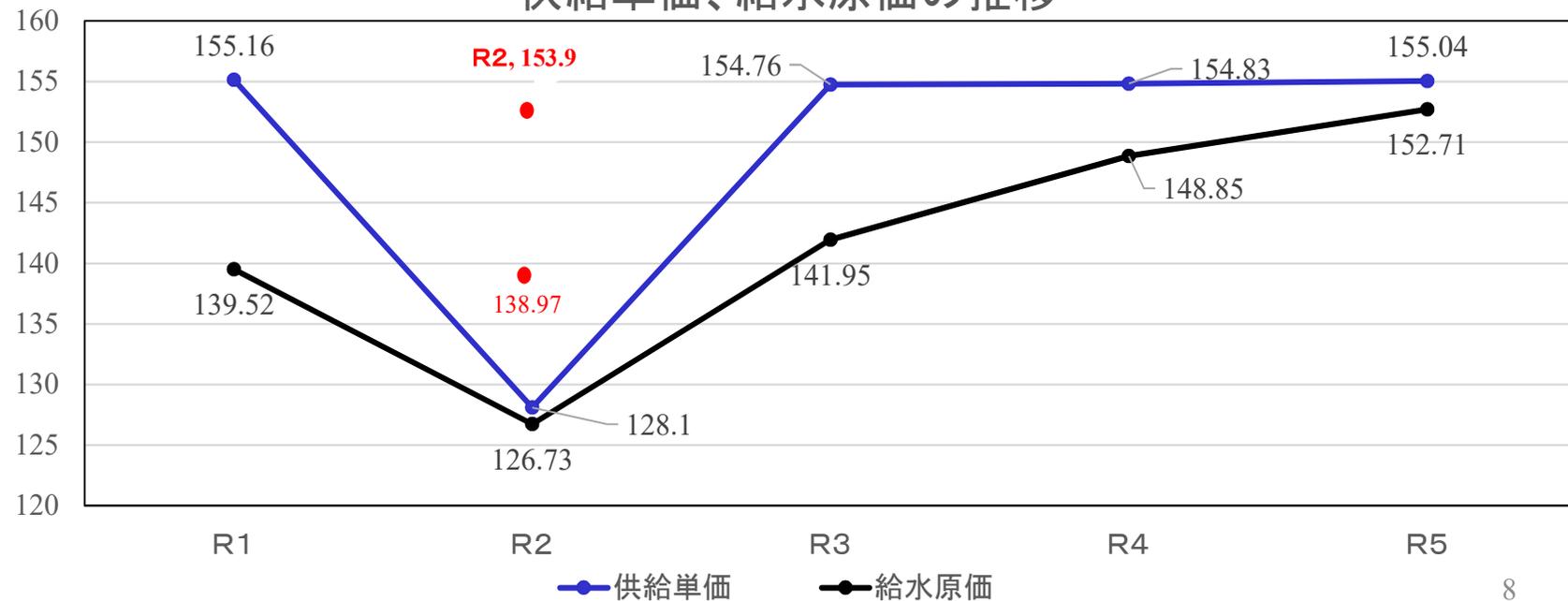
$$= \frac{\text{給水収益 } 3,935,730,794\text{円}}{\text{有収水量 } 25,384,983\text{m}^3}$$

給水原価 **152.71円/m³**

$$= \frac{\text{経常費用 } 4,676,428,290\text{円} - \text{受託工事費 } 3,218,625\text{円} - \text{長期前受金戻入益 } 260,522,474\text{円} - \text{県水処理受託収益 } 536,068,824\text{円}}{\text{有収水量 } 25,384,983\text{m}^3}$$

(単位: 円/m³)

供給単価、給水原価の推移



5 -4 主な経営指標

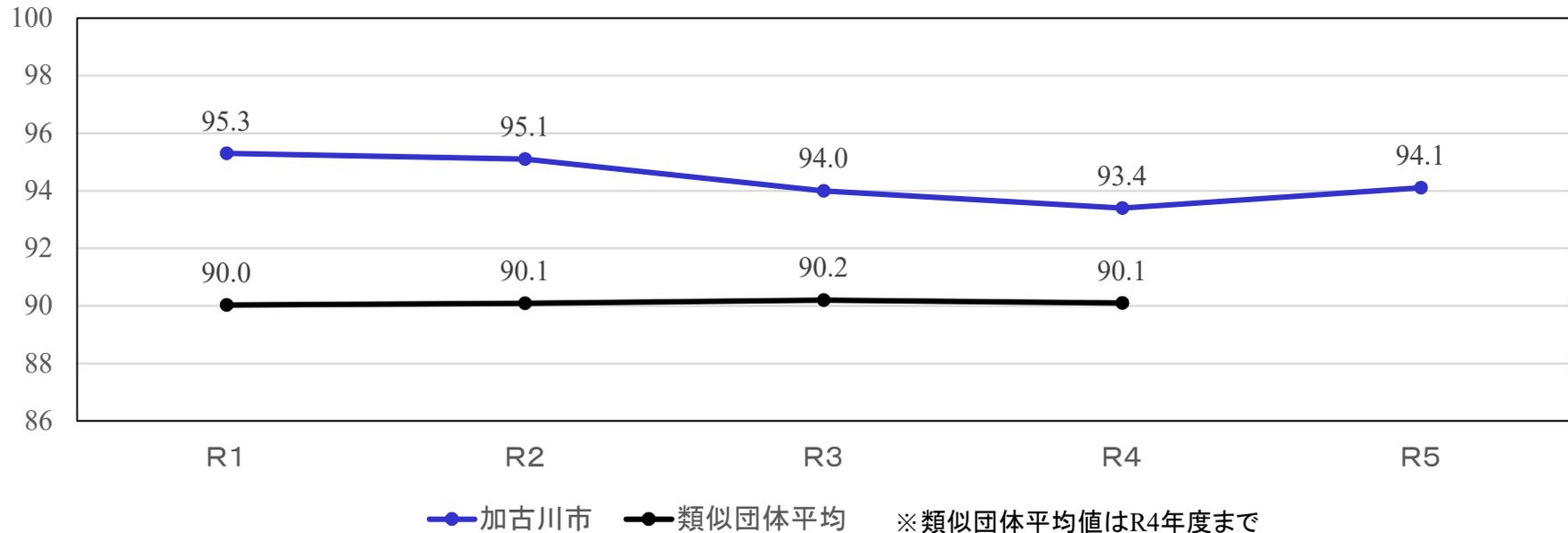
有収率 94.1 (R4類似団体平均:90.1)

【算式】 年間有収水量／年間給水水量

- 100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター不感等といった原因を特定し、その対策を講じる必要がある。
- 前年度と比べ、**0.7ポイント改善**した。

(単位:%)

有収率の推移



5 -5 主な経営指標

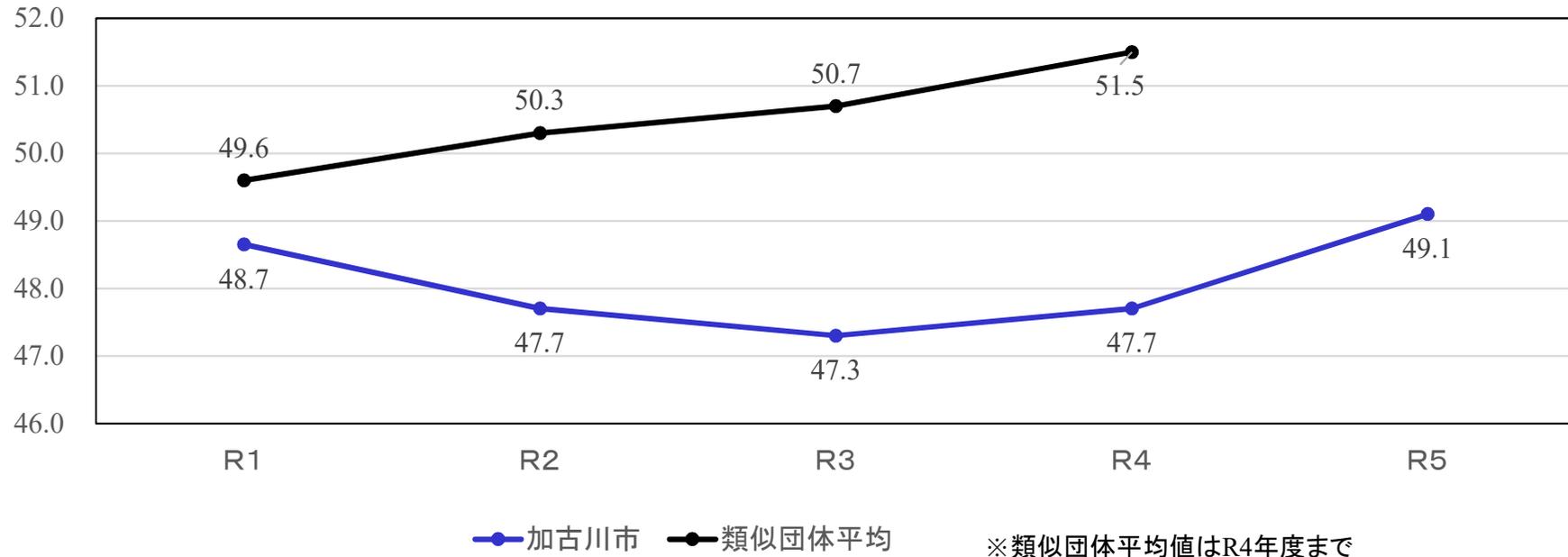
有形固定資産減価償却率 **49.1** (R4類似団体平均:51.5)

【算式】 有形固定資産減価償却累計額／有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価

- 数値が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。
- 減価償却が進んだことにより、前年度と比べ、**1.4ポイント増加**した。

有形固定資産減価償却率の推移

(単位: %)



5_6 企業債及び積立金残高

企業債残高 約 126.7億円

当年度償還高(約7.7億円)を当年度発行額(約7.2億円)が下回ったため、前年度と比べ、約0.5億円減少した。

<主な起債対象事業>

- ・福留配水池耐震化更新工事(No.1配水池)
- ・中西条浄水場高架水槽更新工事
- ・老朽管更新工事

積立金残高 約 24.9億円

4条収支の不足額(資本的収入額が資本的支出額に不足する額)に対し、建設改良積立金5.6億円を補てんしたため、前年度と比べ、約1.2億円減少した。

<建設改良積立金残高>

R4年度決算認定後残高	2,614,479,040円
R5年度補てん額	△ 560,000,000円
R5年度積立額(純利益)	436,444,087円
<hr/>	
R5年度決算認定後残高	2,490,923,127円

補てん額と積立額の差引額
△123,555,913円

6-1 水道ビジョン2028の進捗

安全



安全安心な水づくり

- 水質基準不適合率: 目標値 0%
⇒ 現状: 0.00% (Δ0.27)



水道水の品質の向上

- 平均残留塩素濃度: 目標値 0.40mg/l以下
⇒ 現状: 0.31mg/l (±0)
- 最大カビ臭物質濃度水質基準比率: 目標値 40%
⇒ 現状: 40% (Δ80)

6-2 水道ビジョン2028の進捗

強靱



施設の更新・耐震化

- ・ 浄水施設の耐震化率: 目標値 78.8%
⇒ 現状: 78.8% (±0)
- ・ 配水池の耐震化率: 目標値 100%
⇒ 現状: 21.5% (±0)



管路の更新・耐震化

- ・ 基幹管路の耐震化率: 目標値 50%
⇒ 現状: 32.2% (+1.6)
- ・ 配水支管の耐震化率: 目標値 31.2%
⇒ 現状: 30.7% (+0.4)

6-3 水道ビジョン2028の進捗

強靱



危機管理体制の構築

- ・上下水道BCPに基づく訓練の実施回数：目標値 2回
⇒現状：2回(±0)
- ・災害用応急給水栓：目標値 25箇所
⇒現状：25箇所(+4)※完了



施設の機能維持

- ・有収率：目標値 95.0%以上
⇒現状：94.1%(+0.7)

6-4 水道ビジョン2028の進捗

持続



持続可能な経営

- ・ 経常収支比率: 目標値 100%以上
⇒ 現状: 109.4% (Δ4.0)
- ・ 料金回収率: 目標値 100%以上
⇒ 現状: 101.5% (Δ2.5)



お客さまとのコミュニケーション

- ・ 広報誌発行回数: 目標値 2回/年
⇒ 現状: 2回/年 (±0)
- ・ アンケートの実施: 目標値 定期的に実施
⇒ 現状: 2回/年 (±0)